

令和4年度 第2回江別市行政改革推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和4年11月11日（金） 10:00～11:25

場 所：江別市民会館3階32号室

出席委員：千里政文委員長、吉川哲生委員、伊藤祥子委員、神保正志委員（計4名）

欠席委員：野村奈津子委員、鈴木貢委員、白川典子委員（計3名）

事務局：政策推進課 水口参事、北島主査、眞鍋主査

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）行政評価外部評価ヒアリングについて

① 行政評価外部評価ヒアリング

ア 観光振興計画推進事業（担当課：観光振興課）

観光振興課から説明

【質疑】

○千里委員長

資料1のヒアリング予定事項一覧に沿って質疑を始める。

はじめに、吉川委員から「成果指標1」及び「成果動向及び原因分析」に関する質疑が出ているので、吉川委員から趣旨を簡潔に説明いただき、その後、所管課から説明願う。

○吉川委員

観光振興計画の事務事業評価表では、事業の成果を「上がっていない」と自己評価しているが、十分な成果が出ていると思っていることをお伝えした上で、2点質問する。

1点目は、札幌市では、新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、観光入込客数が3分の1程度に減少したと聞いているが、江別市では、大きな影響がない。この結果について、私としては、道央圏からの観光客が多く、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかったことが要因と考えるが、所管課の分析結果をお伺いする。

2点目は、イラストマップは、非常に良い資料だと思うが、紙媒体では配布数に限りがあることや、最近では、情報をスマートフォンから入手することを考えると、インターネットに掲載されていることが望ましいと思うが、所管課の考えをお伺いする。

○観光振興課

1点目について、現在、自宅から1、2時間程度の近場で、仲間内や家族といった少人数で旅行するマイクロツーリズムという旅行形態が注目されている。吉川委員のご指摘

のとおり、遠出は難しいが少人数で近場のところに行ってみようという中で、札幌圏や道央圏の方に江別市への観光に需要があったと分析しており、観光入込客数の低下を押し留めるようになったと考えている。

また、北海道と協議の上で、令和2年度から江別蔦屋書店を観光施設として含めたことが、観光入込客数の低下を押し留めた大きな要因になっていると考えている。

さらに、札幌市の例を挙げていただいたが、札幌市の観光入込客数においては、外国人観光客、いわゆるインバウンドの大幅な減少の影響が大きいものと思うが、江別市においては、外国人観光客の影響は少なかったと分析している。

2点目について、イラストマップは好評をいただいているが、印刷部数の関係で配布部数が限られている。現時点での担当課の構想として理解いただきたいが、イラストマップのデータをウェブ上に掲載し、マップ上で現在地表示や「えべコレ」という冊子の施設紹介とリンクするなどの取組を検討している。これが実現すると、イラストマップを手にとることができない方にも、市ホームページやSNSなどを通じて、見ていただけるようになる。

○千里委員長

吉川委員からの質疑のとおり、江別市の観光分野は頑張っていると感じているが、事務事業評価表の中では、そのことが見えてこない。市として、しっかりと取り組んでいることがあるのであれば、事務事業評価表に記載し、市民に知ってもらうことも重要だと思う。

次に、神保委員から「対象指標1」「事業内容」などの質疑が提出されている。神保委員から趣旨を簡潔に説明いただき、その後、所管課から説明願う。

○神保委員

私も吉川委員と同様に、観光分野は、コロナ禍においても非常に頑張っていると感じている。その上で、いくつか質疑したい。

1点目は、事務事業評価表の対象指標を「江別市外の人」としていることについて質問する。観光分野に関しては、江別市外の方に来てもらうことが重要だと思うが、同時に市民の市内観光も重要だと感じる。市民の中には、市の観光スポットや特色を知らない方もいるため、そのような方に市のことを知ってもらう取組も必要なのではないかと感じている。特に、コロナ禍になり、遠出ができなくなったことから、市のことをよく知りたいというニーズが出てきているのではないかと感じる。自治会でも日帰りで市内を周遊観光したが、参加者からは非常に好評であった。このような取組が増えることで、市民が市外の方に対して、魅力を発信できるようになり、多くの方が江別市に来るきっかけになるのではないかと感じる。このように、市民が市内観光をすることも観光として位置付けることも大切ではないかと感じるが、対象指標から江別市民を除いている理由をお伺いする。なお、補足になるが、江別市の観光入込客数は、大きな成果を上げていると思う。

事務事業評価を作成する際にも、そのことを念頭の上、自己評価されると良い。

2点目は、観光PR動画はどういった場所で見ることができるのか、お伺いする。

○観光振興課

1点目について、この事業の対象を江別市外の人と限定している理由は、江別市観光振興計画の中で、市民は、行政や民間が一体となって観光を推進していく立場と捉えているからである。市民にも江別市のことを知っていただいて、市の魅力を一緒にPRしたり、場合によっては市外から来た方におもてなしをしたりするという形で観光振興に協力いただきたいという考えがある。そういった意味では、資料に記載の7事業も市民の方に参加していただきたい内容であり、対象に市民を含めることを検討した経緯もある。一方で、限られた予算の中で効果的に事業を進めるときに、メインターゲットを明確にした方が良いという思いもあった。また、観光入込客数は、市外の方のみという定義付けがされていることから、対象を江別市外の方と限定していた。ただし、観光の在り方も変わってきているので、検討の余地があると感じている。

2点目について、PR動画は、江別市観光振興課でYouTubeのチャンネルを持っており、「江別市観光振興課YouTube」で検索していただくと、すぐに見ていただくことができる。最近では、本年9月に札幌市の狸小路に「狸COMI CHI（たぬきこみち）」という観光客向けの食べ歩き横丁のようなものができたが、そこでも江別市を含めた道内の各市町村の観光動画を見ることもできる。また、北海道石狩振興局や関連団体からの依頼で、例えば、大通西二丁目の「エコチルまちビジョン」で流していただいている。また、市内の方にも見ていただきたいと思い、「市民交流施設ぷらっと」などで流していただいているが、今後も、多くの方に見ていただける方策を検討していかなければならないと考えている。

○神保委員

年代の若い方は、江別市の観光施設等について、よく知っているかもしれないが、少なくとも中高年の人は、十分理解しているとは言い難い。そのため、まずは、江別市民が江別市のことを知り、そこから様々な方に広がっていくことが重要だと感じるので参考にしていきたい。

また、イラストマップについて、非常に分かりやすく評判の良い資料のため、可能であれば全戸配布することが望ましいと感じているがいかがか。

○観光振興課

イラストマップの全戸配布については、繰り返しになるが、部数の問題で困難である。学校や自治会からの提供依頼もあるが、お断りしている実情もあることをご理解いただきたい。一方で、年度終期近くに在庫がある場合には、転入世帯に配布することはある。様々なタイミングで集中的に配布したり、デジタル技術を活用したりするなど、情報が

行き届くような手法を検討していきたいと思う。

○千里委員長

神保委員が言われたとおり、江別市民も江別市の知らないことがある。知るきっかけとして、市内観光をすることは大事なことである。ぜひ江別市の魅力をさらに市民に知ってもらうようにPRをしていただきたい。

イラストマップについては、吉川委員との質疑の中でも、予算の制約があり難しいとの説明があったとおり、できることには限りがあると思う。インターネット社会になってきたが、インターネットの良さと紙の良さは別物なので、様々な手法を並行して取り組んでいただきたいと思う。この件について、他の委員から質疑はないか。

○伊藤委員

私自身も含めて、市内観光に対する認識が低かったと思う。市民が市の魅力を再認識して、情報の発信者になれるようなイベントなどがあると良いと思う。自治会や高齢者クラブ、ママ友の口コミは影響が大きいので、そういったものをもっと活用していただきたいと思う。

○千里委員長

伊藤委員の言われたとおり、市民がイベントに参加することも大事だと思う。現在、コロナ禍で活動できる範囲が限られているので、市民に江別市の魅力を知ってもらう良い機会だと思う。

○観光振興課

各種事業にしても周知の仕方を勉強しなければならないと感じている。ホームページに掲載したり、公民館にチラシを配布したりすることもあるが、一緒に江別市の魅力を発信していただくためには、どのような取組が必要なのか検討していきたい。

○千里委員長

第6次総合計画を策定する際、参加した市民から、市のPRが上手くいってないという話が出ていたことを思い出した。市をPRすることは重要であることから、引き続き頑張っていたきたい。

また、PR動画に関しては、YouTubeで検索するとすぐに出てくるので、パソコンなどがあれば見ていただきたいと思う。

この件に関して、他の委員から意見ないか。

○吉川委員

PRは難しいし、上手くやらなければいけないと思うが、PRと言ったときに年代によ

って紙媒体が良い人、テレビなどが良い人など様々である。我々はホームページを見るが、下の年代を見るとSNSやYouTubeをよく見ている。どの年代層をターゲットにするかを考えた上で、手法を検討したら良いと思う。

○千里委員長

年代に応じて様々な媒体を使い分けることは重要だと思う。お金のかからないものも増えてきているので、そういうものを使いながら、可能な範囲で様々なことに取り組んでいただきたいと思う。

イ 都市と農村交流事業（担当課：農業振興課）

【質疑】

○千里委員長

資料1ヒアリング予定事項一覧に沿って質疑を行う。

吉川委員から願います。

○吉川委員

私の母は名古屋市に住んでいるが、北海道に来ると必ず道の駅に連れて行ってほしいと言われる。そういう層はかなり多く、その理由の一つが野菜直売所にあると思う。江別市には、道の駅はないが、のっぽろ野菜直売所がそれに近い機能を果たし始めているように思う。のっぽろ野菜直売所に別の野菜直売所の情報があると、そのまま行ってみようと思う人も出てくるのではないかと。それぞれの直売所ごとに個性があると思うので連携しながら情報発信をする必要があると感じるが、どのような取組を行っているのかお伺いする。

○農業振興課

野菜直売所を情報発信する上で工夫していることとして、まずは直売所マップを、のっぽろ野菜直売所を含め、江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会に所属している直売所に設置している。その他は、市内公共施設やJRの駅等にも設置していただき、情報発信に努めているところである。

また、幅広い年齢層に周知するために、食育授業の一環として行っている中学生を対象としたレシピコンテストを行う中で、直売所マップを配布したり、母親層をターゲットに保健センターで3歳児健診時に配布したりする取組も行っている。

紙媒体については、市内に設置することに重きを置いているが、市外からの利用者に対するPRとしては、観光窓口として開設しているEBRIの中にある「アンテナショップGET'S」や「市民交流施設ぷらっと」にも設置したり、農業に関心の高い人が利用する「サッポロさとらんど」の「さとらんど交流館」にも設置させていただいている。その他に、企画政策部政策推進課のシティプロモート担当で実施しているイベントや観光振興課が実施するイベントの際にも、他のパンフレット類と合わせて直売所マップの配布をお願いしてい

る状況である。

○神保委員

本事業の取組は、しっかりと行われていることが分かった。ただし、本事業の目的を達成するには予算額が少ないという印象を持った。

その上で、何点か質疑する。1点目に、グリーンツーリズム関連施設のそれぞれの利用者数をお伺いする。

2点目に、江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会がどのような組織で、えべつ観光協会とは、どのような連携を行っているか教えていただきたい。各野菜直売所は、江別市外から多くの方が来ているのではないかと感じている。私の妹は、札幌市厚別区に住んでいるが、日曜日の朝早くに行くと新鮮で良い野菜が買えるということを口コミで聞いて、市内の野菜直売所に来ている。そういう面では、観光にも関連してくると感じている。

3点目に、事務事業評価表の成果指標として掲げている「イベント参加者の満足度」についてお伺いする。資料では、毎年、満足度100%となっており、素晴らしい結果となっているが、イベントに参加した人にとっては、開催したこと自体を評価してくれていると思う。そうすると、次のイベントの開催につながっていかないので、改善点や問題点、また、どのような取組を行ってほしいかなどの意見を取り入れる工夫がなければ発展性がない。この点について、所管課としてどのように感じているかお伺いする。

○農業振興課

はじめに、成果指標のグリーンツーリズム関連施設の利用者数について、個別の施設の利用者数については、民間の施設ということもあり、各施設から了承をいただいているものなので、個別にお示しすることはできないが、直売所12か所での利用者数55万5,151人、貸し農園5か所での利用者が160人、体験農場等の利用者数が1,420人、農家レストラン等の利用者数が5万5,300人、協議会の主催するイベントの参加者数が3,320人となっており、合計で61万5,351人となっている。

次に、江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会がどのような組織で、また、えべつ観光協会との連携に関しての質疑についてだが、本協議会は、消費者である市民と生産者が顔の見える関係を築くために、市民に農業への理解を高めてもらう機会を提供する場として、貸し農園や直売所などを通じた「まちとむらのふれあい交流体験活動」を実施する組織である。運営の主体は、生産者であり、道央農業協同組合や石狩農業改良普及センターなどの関係機関等の協力を得ながら、農業振興課が事務局としてサポートしながら活動を進めている。

なお、本協議会は3つの部会に分かれており、直売所部会、貸し農園部会、加工部会で構成されている。それぞれ市民を中心とした消費者に農業について関心を高めてもらうため、様々なイベントの実施をしているところである。

えべつ観光協会との関係については、本協議会の会員の半分は、えべつ観光協会の会員を兼ねていることから、しっかりと連携ができていると考えている。特に、加工品フェア

である「農家のかあさん土曜日」については、江別河川防災ステーションで開催することから、売店を運営するえべつ観光協会と共催する形で実施している。また、毎年11月は、「都市と農村交流センターえみくる」で実施しているが、今年はえべつ観光協会主催の「えべつキッズアートフェス」という、子どもをターゲットにした取組を「農家のかあさん土曜日」と合同開催するなどの連携も行っている。

最後に、イベント参加者の満足度については、委員のご指摘のとおりだと思う。イベントの参加者に対し、アンケートを記載いただいているが、今後どういう取組が必要なのか、例えば、こういうのをやってほしいという希望もアンケートの中で意見をいただいて、それを次に反映するという取組を行っている。一例として、今回の参考資料に掲載した「えべつを食べよう」というキャンペーンは、以前は、市内の12か所の直売所をスタンプラリーという形で、より多くの直売所を利用してもらうイベントだったが、「車を持っている方であれば複数の直売所に行けない」、「時間的な負担が大きい」という意見をいただいたことや、コロナ禍になり、複数の場所に行ってもらうようなイベントがしづらくなったことから、内容をリニューアルし、対象店舗で500円以上購入された方について、抽選で江別市の農畜産物を当たるような形に変更したところである。今後もイベントを企画する際には、市民の声を参考にしていきたいと思う。ただし、事務局は市で行っているが、農業者が主体の3つの部会の考えもあることから、その点を考慮しながら、できる限り今のコロナ禍で実施可能なもの、市民の要望に応えられるようなものを検討していきたいと思う。

○千里委員長

参考資料の12ページに新たに直売所がオープンしたと記載があるが、どこの施設か。

○農業振興課

令和3年4月に、西野幌地区に農畜産物の加工品を製造・販売する施設がオープンした。アイスクリームを販売する施設なのでコロナ禍でも来店者が多かった。前年度に比べるとグリーンツーリズム関連施設の利用数が増えているが、その施設の利用者数が増えたことが要因と考えている。

○神保委員

以前、その施設に行ってみたのだが、白鳥がかなり多く飛来していた。施設の近くに住む友人からは、朝早くから大きな声で鳴いて困っているという話も聞いたが、観光資源として活用できるのではないかと感じた。長沼町は、白鳥の飛来地として有名だが、江別市にもたくさん飛来しているので、観光資源として有効に活用できれば良いと感じる。

○千里委員長

テストキッチンは、市内に何か所あるのか。

○農業振興課

「都市と農村交流センターえみくる」という施設内に1か所ある。そこは、農家の方だけではなく、一般の方も利用できるようにしている。

○千里委員長

他に質疑、意見はないか。

○吉川委員

農畜産物加工新商品開発等支援事業について、令和3年度は活用がなかったということだが、予算規模と何件くらいの申請を想定していたのかお伺いする。

○農業振興課

令和3年度の予算規模としては80万円、概ね1件40万円と想定し、概ね2件の申請を予定はしていた。商品をリニューアルしたり、パッケージを変更したりする際に活用するようにお願いしているが、コロナ禍になり経済が冷え込んでいることと、農業政策が転換され、制度が変わったことで本業が忙しい農家が増えているので、令和3年度の実績はなかった。なお、今年度は、すでに申請が1件あったところである。

○吉川委員

新しくオープンした直売所は、農畜産物の加工品の製造を行っているとのことだったが、国の補助金が入っているのか。入っているとすれば、市の補助金と重複する部分はないか。

○農業振興課

当該施設の建設にあたっては、国の補助金を活用している。国の補助金は、建物を建てるためのハード面の支援で、市の補助金は、商品開発のためのソフト面の支援を行っている。当該施設では、市の補助金の活用は無いが、補助金の役割は重なっていない。

○千里委員長

他に質疑、意見はないか。

(なし)

② 意見交換

【質疑】

○千里委員長

はじめに、観光振興計画推進事業の事務事業評価について、意見や改善提案のある方は発言願う。

○吉川委員

資料を見て、縦割りで様々な取組を行っていると思ったが、えべつ観光協会などと連携しながら横断的に取り組んでいることが分かった。

○千里委員長

観光産業は大切であることから、ヒアリングを通じて実態が分かったことは良かった。ただし、事務事業評価表からは、市の努力の成果を読み取れない部分もあったことから、もっとアピールしても良いと感じた。

○神保委員

えべつ未来戦略の構成事業は、今回ヒアリングした2事業以外にもあることから、本委員会の資料として、ほかの事業の実績も分かるようにしていただければ良かったと感じた。

○千里委員長

先ほどの質疑では、コロナ禍で頑張っているが、資料では分かりにくいとの意見もあったことから、事務事業評価表の中で上手く表現できれば良いと思う。全体としては、今回のヒアリングの中では、ここを修正すべきという意見はなかったと思う。

○伊藤委員

都市と農村交流事業の中の農畜産物加工新商品開発支援事業に関して、農家が大変で申請がなかったとの話があった。主体が農家だということで、行政の関わりは難しいのかもしれないが、せっかく予算もあるので、もう少し行政が手助けをすることができなかつたのかと思う。

○千里委員長

所管課がないので多分わからないと思うが、事務局としてはどうか。

○事務局

実態は分かりかねるが、予算を活用してもらおうという努力はしていると思う。先ほど説明があったとおり、様々な状況がある中で止むを得ない部分はあったと思うが、ある制度を利用したい、活用したい方にしっかりと情報を届けるという意味では一貫して情報発信などは課題になってくると思う。

○吉川委員

市はソフト事業のみの支援ということであったが、ハード面の支援とセットで考えなければならぬと思う。

○千里委員長

これまで利用がなかったわけではなく、令和3年度に実績がなかっただけだと思う。今年度はすでに1件の申請があったという話があったので、活用できない補助事業というわけではないと思う。

○事務局

先ほどの担当課の話では、新型コロナウイルスの影響が大きかったということと、農業政策が大きな転換期にあり、こういった制度にまで目を向ける余裕がなかったという状況を受けた上での令和3年度の実績だったと思うが、令和4年度は、すでに1件申請されているということだったので、状況は少し改善してきているのではないかと感じている。

○千里委員長

ヒアリングの中では、都市と農村交流事業の予算規模の話が出ていたが、やや少ないと感じた。農業と観光は密接な部分があり、両方とも重要な分野であることから、しっかりと取り組んでいかなければならないと思う。

○吉川委員

小学校などでもイラストマップの需要があるならば、教育委員会で予算措置をすることも考えられるのではないかと。

○千里委員長

子どもたちは、江別市の歴史や特色を学ぶ機会はあると思うが、イラストマップを通じてお店や観光スポットなどに興味を示してもらうことも大切である。このように、施策の横の連携は重要であることを所管課に伝えていただきたい。

○事務局

情報発信において、紙媒体の良さ、電子媒体の良さは、それぞれメリットとデメリットがあるという話を各委員からいただいた。また、観光振興課からは、今後イラストマップをデジタル化できればという話もあった。さらに、小中学校においては、タブレット端末を活用した教育も進めているので、そういったところで上手く連携していければ良いのではないと思う。それでも、紙媒体の良さがあると思うので、組織の横の連携をしながら進めていくことが望ましいということは各部局に伝えたいと思う。

○千里委員長

市にもデジタル分野を推進する組織ができたと聞いている。そこと連携し、デジタル技術を活用した事業のPRなどを進めていただきたい。

本委員会は、事業に対する進言を目的とするものではなく、市民目線で市の内部評価がし

っかりとできているか確認し、市民に市の取組を分かりやすく知ってもらうことを目的としているが、そのような目線で、委員から意見があれば発言願う。

○神保委員

観光振興計画推進事業のヒアリングの際、市民が江別市の魅や特色をしっかりと知っていただき、そこから発信するような取組を行っていただきたいと発言したが、報告書を作成する際、何らかの形で整理されるとありがたい。

観光というのは、観光資源の発掘と充実に加え、それを周知することが重要である。市民が江別市のことを知らなかったら、外に向かって発信はできないと思う。観光セミナーを行い、専門家を育てると言うが、そういう人がどれだけいるのか。市民が江別市のことをよく知り、自然と市外に広がっていくようにすることが、最も事業の目的に沿っているのではないかと感じる。

また、例えば、ふるさと納税のときにも市を紹介するチラシを入れるなど、様々な手法で江別市の良さを知ってもらうことが重要だと思う。

○千里委員長

本日、ヒアリングを実施してみて、観光分野と農業分野は関係性が深いと感じた。また、それぞれ頑張っている部分があるので、そこが分かるように事務事業評価表を作成いただきたいと思う。

大きな改善点などはなかったが、様々な意見が出ていたので、事務局に整理いただき、報告書を作成したいと思うがよろしいか。

(了)

○事務局

各委員から貴重な意見をいただいたので、これから報告書を作成するにあたり、記載した方がよい項目を整理した上で、委員の皆様にお示しすることになる。

○千里委員長

各委員から、報告書に記載してほしい項目などあれば、事務局と協議していただきたい。まずは、会議録等を見ていただき、それに対して意見を事務局に伝えていただけると助かる。それでは、今後は、このような流れで進めていきたいと思うが良いか。

(了)

3 その他

今後のスケジュール等について事務局から説明

4 閉会